

「開発途上国における生物多様性保全の現場にふれる」

担当教員名 高田 雅之／武貞 稔彦

1 コースの概要

日程	2013年8月11日～18日
場所	南インド
参加人数	24人

2 コースの目的

南インド西部は世界的な生物多様性の重要地域（ホットスポット）のひとつです。そこで国立公園や自然保護区を訪ね、①生き物の観察を通して豊かな自然環境を理解する力を養う、②観光や森林利用といった開発途上国における人間と自然の関係について考える、③インドゾウを取り巻く環境と文化について理解を深める、ことを目的とし、途上国の視点に立って生物多様性保全のあり方を考える機会としました。さらに歴史・都市・暮らしなど様々な切り口でインドそのものを体感し、自然と社会の両面から、途上国に対する豊かな感性を養うことも大切な狙いのひとつとしました。

3 事前学習

目的を達成するため、「国立公園」「自然観」「生態系・インドゾウ」「文化」「観光・経済」という5つのテーマを設定しました。各自の関心に応じてグループ編成を行い、重なる内容は互いに役割を分担しながら学習を進めました。そしてその成果を発表し合うことで、情報や課題を共有して現地に臨むことができたと思います。また野生生物を観察する実地トレーニングとして東京港野鳥公園に出かけ、双眼鏡の使い方や動物観察のコツについて実習しました。最後に旅行の準備や注意事項を確認し、6回にわたる事前学習を終えました。



ランガンチットゥ鳥類保護区でワニを発見

4 行程（内容）

1日目

成田空港をお昼に出発し、デリー経由でバンガロールに到着したのは深夜近くでした。その日はバンガロールのホテルで移動の疲れを取り翌日以降に備えました。

2日目

バンガロール近郊のパナルゲッタ国立公園を訪問し、サファリバスに乗って野生動物を観察しました。この公園は希少動物を区画毎に管理しており、大型の猛獣などを間近で観察することができました。その後寺院やショッピング施設など、ガーデンシティ・バンガロールの素顔を見物しました。

3日目

バンガロールから西へ、ランガンチットゥ鳥類保護区をたずね、水辺林に群れる水鳥やオオコウモリ、ワニなどを観察、次いで世界遺産西ガッツ山地の麓に広がるバンディプール国立公園を訪れました。夕方のサファリではバスからインドゾウ、インドクジャクをはじめとする多くの野生動物に出会うことができました。

4日目

朝食後、2回目のサファリを行ったのち、ドレスデン・リサーチ財団のスカント氏から、動物保護のため保護区内に住むクルバ部族の人々を移住させた取り組みについて説明を受けました。続いて移住した人々の村を訪ね、暮らしや教育の現場を視察しました。夕方はムドゥマライ動物保護区に足を伸ばして3回目のサファリを体験、親子のゾウを間近で観察することができたのが大きな収穫でした。

5日目

朝ホテルで行われた独立記念日のセレモニーに参加したのち、バンディプール国立公園を離れマイソールに向かいました。裸足で宮殿を見学したのち、マハラジャの親族が営む幼稚園にて南インドの家庭料理を食



バンディプール国立公園で野生動物観察

べました。市内のデヴァラジ市場を訪れたのち、マイソールを一望する丘から夕景とライトアップされた宮殿を堪能しました。

6日目

マイソールから日帰り、ドォバレ・エレファントキャンプに行き、インドゾウと触れ合うことを通してゾウを取り巻くインドの文化を肌で感じる機会を持ちました。その後ツアーガイドの方の取り計らいで一般の家庭を訪ね、お祈りに参加し、村内と農地をしばし散策しました。

7日目

マイソールからバンディプール空港へ向かい帰途につきます。午後の便でデリーを経由し成田に向かいました。

8日目

朝全員無事に成田空港に到着後、解散しました。

5 事後学習

現場を訪れて自分自身の目・耳・肌で直接学び、感じ取った成果を、各自の事前学習テーマに沿ってまとめる作業を行い、その成果を公開報告会で発表しました。報告会の段取りを、カンボジア FS のメンバーとも連携して全て自分たちの手で進めたことも重要な成果といえます。報告会ではムービーで行程を紹介し、インドの概要、5つの学習テーマ、全体まとめについて発表ののち、2人のツアーガイドのメッセージで締めくくりました。次いで報告書の作成です。各人による旅の意義と成果をまとめた個人レポート、5つのグループごとの成果報告、インドと訪問した自然公園等の紹介、観察できた野生動物の図鑑、報告会のアンケートなどを、皆で作業分担して、こちらも自分たちの手で取りまとめました。

南インドを訪ね、限られた時間ですが自然、町、暮らし、文化、人間を強烈に感じとる濃密な時間を過ごすことができたと思います。途上国の生物多様性を主題とした学習でしたが、その国の人間や社会・文化と決して切り離せないものであり、アジアや世界の視野からこの主題に挑む上で、価値観の違いをどう乗り越

えて協力していくかを深く考究する、この上ない機会になったものと考えます。



クルバ部族の村の小学生たちと



マハラジャ親族の幼稚園にて南インドの家庭料理を体験



ドォバレ・エレファントキャンプにて

学生の声

行ってみないと分からないインドの魅力



2年 大なぎ 見咲

わたしたちはインド FS 1 年目ということもあり、手探り状態で関心のある分野に分かれグループを作り、事前学習をしました。実際に現地に行ってみると、事前学習とは異なることへの驚きや感心、感動がありました。FS の内容自体はサファリや自然公園で、の動植物の観察が多かったのですが、市内観光や観光地見学などもとても勉強になりました。帰国後は各自のレポートと事後学習の発表があり、フィードバックする良い機会にもなりました。インドの面白い例を挙げるとすれば、クラクションの音がおかしかったり、停電は日常茶飯事だったり、物乞いがいたりしました。このような経験はインドならではの体験でした。歴史、文化、宗教、自然、経済発展など、他にもインドを表すにふさわしい言葉はいくつもあり、インドという国は一言では言い表せない、不思議で魅力的な国だと思います。インドに関心がある方は是非行ってその感覚を確かめてきてください！